

2012年2月23日

BBIX 株式会社

株式会社 IDC フロンティア

九州通信ネットワーク株式会社

株式会社サイバーエージェント

株式会社データホテル

株式会社ドワンゴ

ファーストサーバ株式会社

株式会社ミクシィ

ヤフー株式会社

楽天株式会社

IPv6 ネットワークに関する共同実験について

BBIX 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：宮川 潤一）と、インターネット上で各種サービス提供を行う株式会社 IDC フロンティア（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：真藤 豊）、九州通信ネットワーク株式会社（本店：福岡県福岡市、代表取締役社長：秋吉 廣行）、株式会社サイバーエージェント（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO：藤田 晋）、株式会社データホテル（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：嶋田 健作）、株式会社ドワンゴ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林 宏）、ファーストサーバ株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役：磯部 真人）、株式会社ミクシィ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：笠原 健治）、ヤフー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：井上 雅博）、楽天株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役会長兼社長：三木谷 浩史）は、現在 IPv4 ネットワーク上で提供されているインターネットサービスが IPv6 ネットワークに円滑に対応することを目的として、2012年3月上旬より IPv6 ネットワーク共同実験を行います。

現在の IPv4 アドレスは、全世界的に枯渇の方向に向かっており、2011年2月には IANA^{*1}の IPv4 アドレスの割り当てが終了し、アジア太平洋地域においても 2011年4月に APNIC^{*2}の IPv4 アドレスの割り当てが終了を迎えました。その一方で、IPv6 アドレスの普及については全世界で 0.4%^{*3}に留まっている状況です。さらに、昨年度行われた IPv6 トライアルイベント「World IPv6 Day」においては、フォールバック問題^{*4}に代表される日本固有の課題を国内外から指摘されております。これらを背景に、IPv6 ネットワークへの円滑な対応を目的とし、ネットワークインフラの IPv6 対応をはじめ、動画配信ポータルサイト、ネットショッピング、SNS などの多様なインターネットサービスの IPv6 対応を実証する総合的な実験を行います。今回、以下をはじめとした各種実験を予定しています。なお、今回の共同実験は、実験ごとに参加事業者を募り、希望する事業者が共同で実験を行います。

<実験概要>

1. **IPv6 アクセス実験**

実験参加各企業が IPv4 インターネット上で現在提供しているさまざまなコンテンツを IPv6 に対応させ、BBIX が用意する各種 OS、デバイス等からアクセスを行い、IPv6 ネットワークへの接続性を評価します。

2. **フォールバック実験**

IPv4/IPv6 フォールバック試験環境から、実験参加各企業のデュアルスタックコンテンツに対しアクセスを実施し、フォールバックの有無による接続品質の比較を行います。本実験の結果は、後日 BBIX により「Touch the IPv6」専用サイトにて公開します。

3. **IPv4 アドレス共有環境実験**

IPv4 アドレス共有技術「4rd^{※5}」による IPv4 インターネット接続環境にて、実験参加各企業のコンテンツに対する接続評価を行います。

参加事業者：全 11 社（2012 年 2 月 23 日現在）

BBIX 株式会社

株式会社 IDC フロンティア

九州通信ネットワーク株式会社

株式会社コナミデジタルエンタテインメント

株式会社サイバーエージェント

株式会社データホテル

株式会社ダウンゴ

ファーストサーバ株式会社

株式会社ミクシィ

ヤフー株式会社（予定）

楽天株式会社

（順不同）

本実験に参加する各社は、今後もさまざまな実証実験や技術情報交換会などへの取り組みを通じ、さらなる IPv6 インターネットサービスの普及・発展に寄与してまいります。

※1 Internet Assigned Number Authority の略で、インターネットで利用される IP アドレス、ドメイン名、AS (Autonomous System) 番号、プロトコル番号、ポート番号の割り当てと調整を行う機関。

※2 Asia-Pacific Network Information Center の略で、アジア太平洋地域各国の NIC や ISP へ IP アドレスの割り当てを行う機関。

※3 Google 出典(<http://www.google.com/ipv6/statistics/>)、2012 年 2 月 6 日調べ。

※4 IPv6/IPv4 デュアルスタック環境にあるユーザーがインターネットを利用する際、通常 IPv6 通信を優先するために起こる遅延現象のこと。タイムアウトや ICMP エラーなどにより、IPv6 通信での通信に失敗したと判断されたあと、IPv4 通信に切り替えて接続が実行されるため、ユーザーがインターネット接続を実行してから接続までに遅延が発生する。

※5 IPv4 residual deployment の略で、IPv6 ネットワーク上で IPv4 パケット通信を可能とするトンネリング技術の一種。IPv4 アドレス共有技術として有効なだけでなく、IPv6/IPv4 デュアルスタック環境をユーザーに提供する際に必要なネットワークコストを最小限に抑えることができる。

● 本紙に記載されている会社名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

【本件に関するお問い合わせ先】

報道機関から<共同実験事務局 (BBIX 内)> Tel: 03-6889-2300 Fax: 03-6215-5011